

「地域から見つめる「食」と「農」のいま、未来」をテーマに5月23日から3日間、総合文化会館で「システム農学会2008年度春季大会 in えひめ西条」を開催しました。

システム農学会が自治体と共催することも、西条市で学術学会が開かれることも、今回が初めての事です。

◆大会初日

初日はシンポジウムと総合討論が行われ、システム農学会ではどのような研究が行われ、今後のまちづくりはどう活かされようとしているのか、という大会の趣旨説明に続き、市長をはじめ、各専門分野の先生方による講演がなされ、参加者は熱心に聴き入っていました。（講演要旨は次ページ参照）
講演後は、京都大学大学院地球環境学堂の小林正美教授をコメンテーターに、同大学院の田中樹准教授を座長に迎え、講演者4名と会場内の参加者を迎えての総合討論が行われました。

◆大会2日目

2日目は一般研究発表が行われ、システム農学会の会員や、西条農業高等学校、丹原高等学校、愛媛大学附属農業高等学校の生徒、東予地方局、西条市教育委員会の行政担当者それぞれが、日頃の研究成果などを発表したり、情報・意見を交わしたりして、交流を深めていきました。

発表後は、優秀な発表者に対しての表彰が行われ、地元高校生に次の賞が授与されました。（敬称略）
システム農学会理事會賞

○『地域の文化遺産を守れ〜棚田石垣修復への挑戦〜』

西条農業高等学校（成高大翼、菊池竜気、曾我健司、高橋範考、関野貴文、藤岡北斗）

○『地域に根ざした菊づくりの普及を目指して』

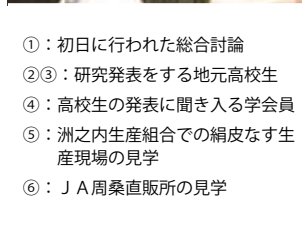
丹原高等学校（安藤勇人、福田崇晃、森田謙、森山龍馬、渡部翔太）
大会実行委員長賞

○『うまいぞ菜で地域に働く場の創造を その1〜「うまいぞ菜」商標登録の反響〜』

西条農業高等学校（森本智行、玉井元樹、矢野賢仁、太田茉莉、千崎沙姫）
○『赤シソ栽培の研究―栽培技術の改善に取り組んで―』
丹原高等学校（中村宏美、小笠原稜一、安藤龍彦、越智悠介、黒川祐大）

◆大会3日目

3日目は学会員や一般参加者による現地見学会が行われ、石鎚ふれあいの里、洲之内生産組合、JA周桑直販所「周ちゃん広場」、食の創造館などを視察しました。参加者は、西条産の農産物に触れたり食べたり、また、生産者と意見を交わしたりして、西条市の農業を実際に体感していました。



- ①：初日に行われた総合討論
- ②③：研究発表をする地元高校生
- ④：高校生の発表に聞き入る学会員
- ⑤：洲之内生産組合での絹皮なす生産現場の見学
- ⑥：JA周桑直販所の見学

システム農学会2008年度春季大会 in えひめ西条を開催

食と農を考へる